

社会化エージェントの多層的影響に関する研究 (29) —エージェント潜在クラスが中学生の共感性に及ぼす因果的影響の再分析—

○吉澤寛之 (岐阜大学)
原田知佳 (名城大学)
玉井颯一 (高知工科大学)

吉田琢哉 (岐阜聖徳学園大学)
浅野良輔 (久留米大学)
吉田俊和 (岐阜聖徳学園大学)

キーワード：社会化, エージェント, 共感性

Harris (1995) は、子どもの社会化が、親、友人、地域住民、教師といった特定のエージェントとの関係など、文脈固有で行われると指摘する。Grusec & Davidov (2010) は社会化の過程に着目し、その領域を“protection”, “reciprocity”, “control”, “guided learning”, “group participation” に整理している。各エージェントは、いずれかの領域限定で有効な機能を発揮すると指摘する。吉澤他 (2016) は、各エージェントが効果的な社会化機能を有することを資源と捉え、子どもを取り巻く全エージェントの包括的資源を仮定して、その資源の様態が、共感性に影響することを縦断調査で明らかにした。一方で、事前の共感性が統制されていない問題があった。本研究では、エージェント指標と同年に測定した共感性を統制し、1年後の共感性への影響を検討する。

方 法

対象者 A 県内の平均的な特徴を持つ 1 公立中学校に通う生徒 428 名と保護者を対象に Time 1 (2014 年 1 月; 1 年生 173 名, 2 年生 169 名, 3 年生 86 名; 男子 184 名, 女子 244 名; 父 29 名, 母 378 名, 不明 21 名), 1 年生を対象に Time 2 (2015 年 1 月) に調査を行った。生徒への調査は Time 1 で 3 回, Time 2 で 2 回に分け負担を軽減した。

中学生の測定内容 Time 1 では以下すべて, Time 2 では共感性の回答を求めた。丹野 (2008) の友人関係機能尺度を改訂し用いた (12 項目 5 件法)。三隅・矢守 (1989) の教師リーダーシップ尺度を用い (22 項目 5 件法), 下位尺度を合成して P 機能と M 機能の 2 尺度を構成した。長谷川他 (2009) の共感性尺度から、視点取得と共感的関心を用いた (16 項目 5 件法)。

養育者の測定内容 中道・中澤 (2003) の応答性と統制からなる養育態度尺度を、小学校低学年時の回顧法用に改訂し用いた (各 5 項目 4 件法)。安香他 (1990) の望ましい行動 (良) と望ましくない行動 (悪) を測定するしつけ尺度を、回顧法用に改訂し用いた (各 13 項目 5 件法)。吉澤他 (2009) の非公式社会的統制と社会的凝集性・信頼からなる地域住民の集合的有能感尺度を用いた (各 6 項目 4 件法)。住民関与性として、地域住民が地域の子どもの関与する活動に携わっている程度の回答を求めた (10 項目 5 件法)。地域活動参加度と子ども関与度の下位尺度を構成した。

結果と考察

社会化エージェントの得点の様態に基づく潜在クラスを把握するため、Mplus ver. 7.4 により潜在プロファイル分析を実施した結果、吉澤他 (2016) に整合する 6 クラスが抽出された (BIC: 5 クラス = 11858.70, 6 クラス = 11814.88, 7 クラス = 11887.59; BLRT: 5 対 6 クラスの変化は非有意)。エントロピーは.72, 各クラスへの所属確率は.75 ~ .92 であり、分類は正確であると判断した。Figure 1 に示すエージェント指標推定平均値のプロファイルから、各クラスの特徴が見出された。

Nylund-Gibson & Choi (2018) による共変量 (Time 1 の共感性, 性別, 年齢) を伴う 3 段階法を用いた分析を実施し、潜在クラス間の抹消結果 (distal outcomes: Time 2 の共感性) を比較した。ペア比較の結果、視点取得はクラス 3 (推定平均値: 3.35) よりもクラス 4 (3.69) と 5 (3.81) が高く ($p < .05$), クラス 6 (3.65) が高い傾向にあった ($p < .10$)。共感的関心はクラス 3 (3.17) と 4 (3.16) よりもクラス 1 (3.59) が高く ($p < .05$), クラス 3 (3.17) と 4 (3.16) よりもクラス 5 (3.59) が、クラス 4 (3.16) よりもクラス 6 (3.59) が高い傾向にあった ($p < .10$)。

吉澤他 (2016) と同様の全資源の高いクラス 6 に加え、親 (クラス 5) など特定のエージェント資源の高いクラスにおいても、共感性 2 側面が一貫して高く、エージェント資源による補完性が示唆された。今後は、反社会的な社会性指標など他指標に対する因果的影響の分析が求められる。

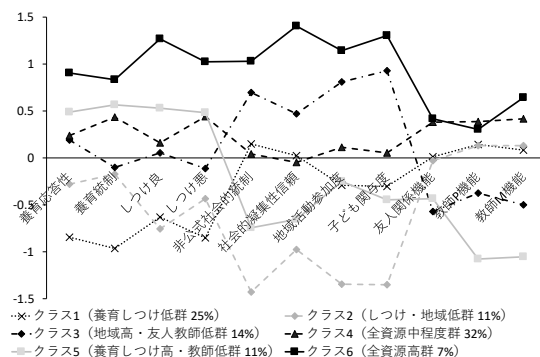


Figure 1 潜在クラスのエージェント指標推定平均値 (標準化値)